

孫がヨチヨチ歩きをし始めた頃、犬を連れて散歩に出かけた。その時、大型犬で孫の倍以上も体重のある犬の目が、実に優しく生き生きとしているのに気づいた。付かず離れず時々孫の様子を見ては、そっちは危ない、こっちはと鼻先で誘導するよう仕草をして、こっちは犬には、か弱い者への労りの心が備わっているのだろうか。

十二月の初旬、散歩に出かけた七十代の女性が、帰り道を見失い、寒空の下、一夜を戸外で過ごしたが、奇跡的に凍死を免れた。というニュースが流れた。リードのはずれただどこかの飼い犬が、その女性に寄り添って朝まで一緒にいてくれたことが、生還の要因であろうとのことであつた。悲惨な事件が報道される昨今、まさに心温まる話である。助けようとの意思があつたかどうかは分からないが、きっと人間好きの犬だつたのだらう。

犬の体温は人間より一、二度高いという。だから、湯たんぽ代わりになると一緒に寝ている人も結構いるらしい。確かにおなか

に触れていると暖かさがジワジワと伝わってくるの分かる。これが人助けにつながるのだ。

暖かい：・身体が暖かい、心が暖かい、懐か暖かいなどなど暖は温もりという文字とも暖かい心地よく響く。暑さ寒さの中間に位置する「暖」そして「温」は、日常生活に欠かせない存在だ。

我が家の水道は、給湯器の性能からおよそ十五秒かけないと温水とならない。ちよつと大げさかも知れないが、冷たい水にさらされやがて暖かいお湯に変わったとき、あの硬直した手に伝わる感触は実に幸せな気分をさせてくれる。また、寒い朝の散歩で、防寒服で包まれた固まった身体が、数分で暖まり始めたときや、さらさらの夜、帰宅して、玄関から部屋に入ったときにも同じようになことがいえる。寒さは人の身体に自由を奪うもの。暖かいと行動力が増す。

これは実感である。暖かいと行動力が増す。地球温暖化が叫ばれてから久しい。日本もこのまま行けば、温帯地域から亜熱帯地域へと変化するとも言われている。だから、適じやないかと言えなくもない。だが、そ

うではない。バンコクで過ごしたときにそ  
う感じた。歴史ドラマで寒々とした武家屋敷が出て  
くる。暖房の無い、殺風景な部屋と粗末な  
服装でよくもまあ過ごせたものと感じして  
しまう。それが当たり前の世の中だったか  
ら、身体も付いていったのだろうか。冬  
が去り、草木が芽吹き花が咲く。夏の日照  
りに耐え秋には秋の花が彩る。昔の人は、  
自然の脅威におのきながらも、現代以上  
に寒さを凌いで迎える春の喜びを感じてい  
たことだろう。四季のある日本で生まれ育った私。寒さ  
があつて初めて暖かさのありがた味が分か  
ると思うことにしている。たった今、どっ  
ぷり暖房に浸かりながらそう考えた。